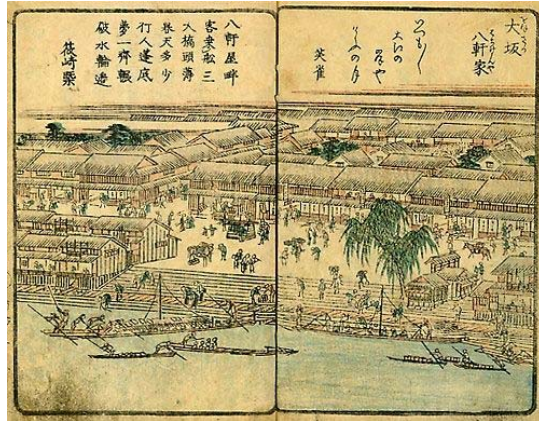
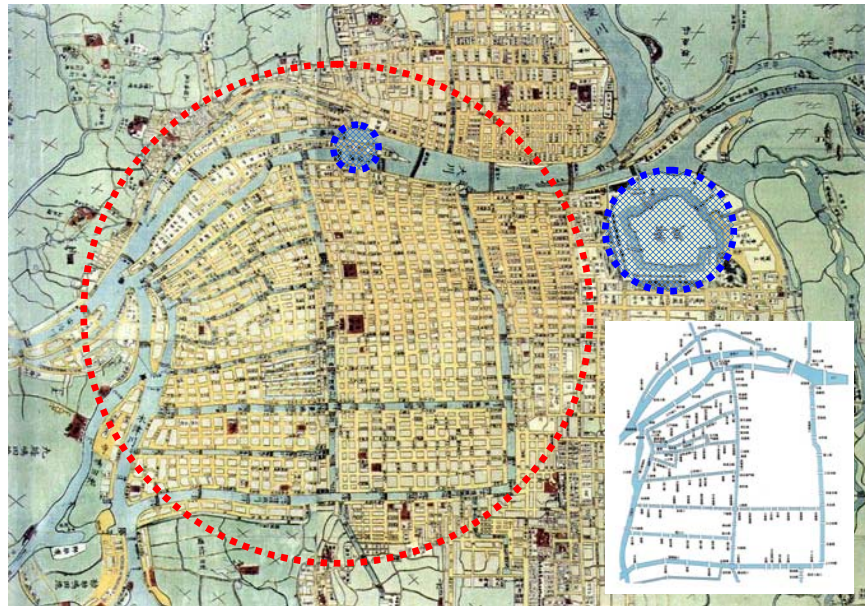




浮世絵に描かれた大阪



江戸時代の大坂の市街地図

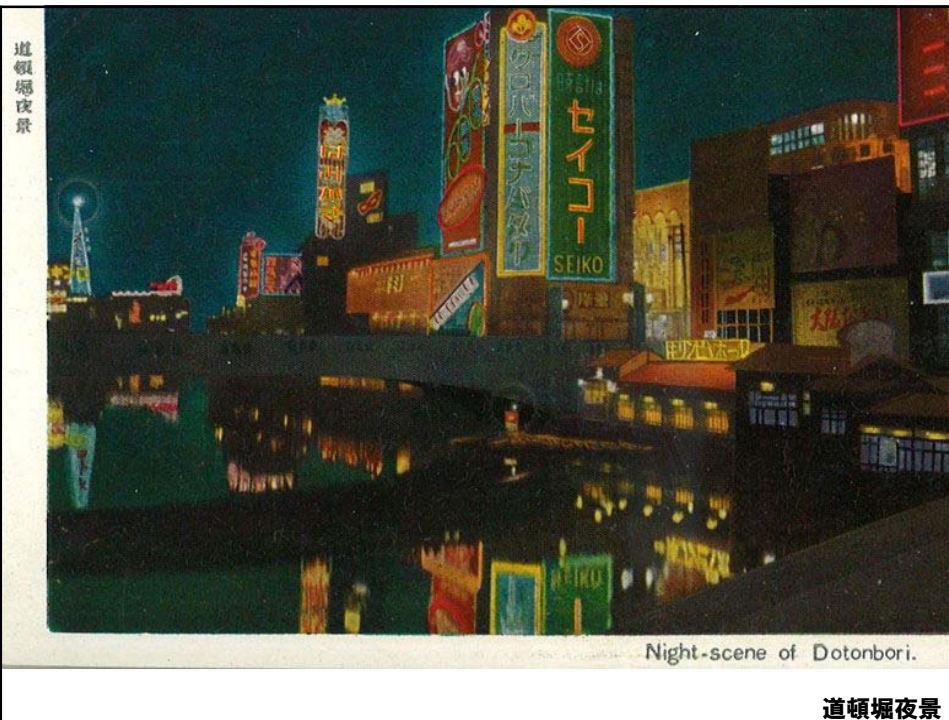


現在の大阪の川



水の回廊

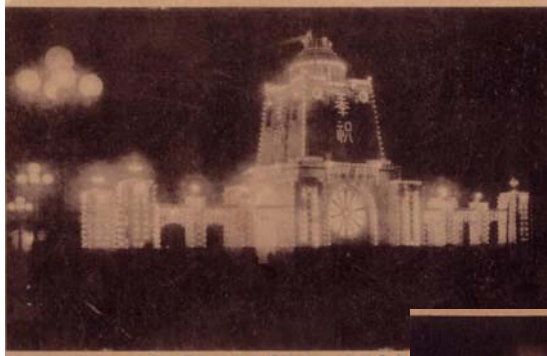
江戸時代の大阪の川



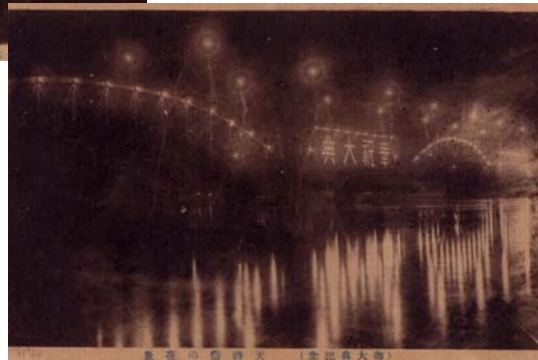
道頓堀夜景

Night-scene of Dotonbori.

道頓堀夜景



難波橋奉祝塔の夜景(御大典記念)



天神橋の夜景(御大典記念)



中之島公園





八軒家浜(2006年)



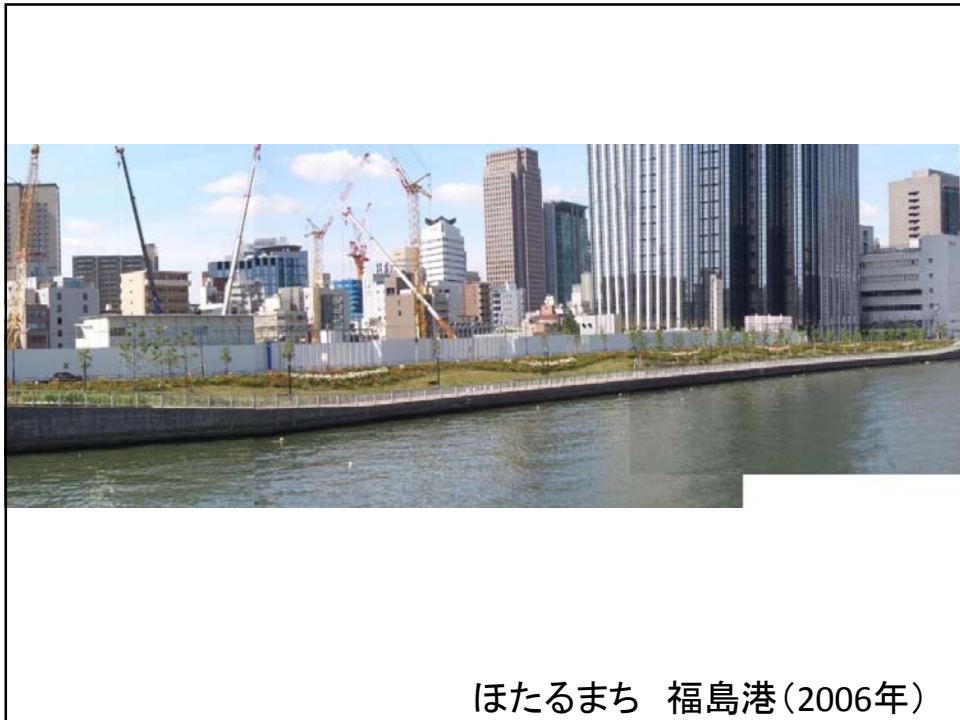
八軒家浜(2008年)



中之島バンクス 大阪国際会議場前港(2003年)



中之島バンクス 大阪国際会議場前港(2010年)





中之島にぎわいの森 (2011年)



中之島にぎわいの森 (2013年)



中之島にぎわいの森 (2011年)



中之島にぎわいの森 (2013年)





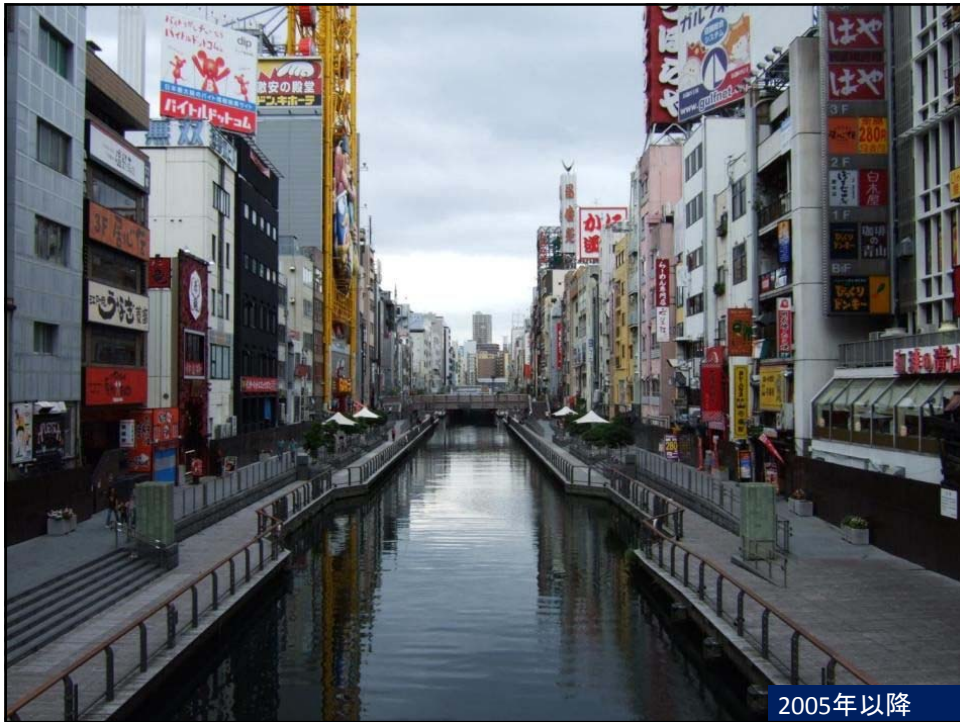




木津川(ドーム前) 遊歩道(2004年)



道頓堀川 とんぼりリバーウォーク(1998年頃)







◆堂島大橋



◆玉江橋



◆天満橋



◆国際会議場前護岸



◆ほたるまち前護岸



◆日本銀行前護岸



◆南天満公園



◆ローズポート





北浜テラス(大阪川床)



水辺を楽しむことができる川床「北浜テラス」



ライトアップされた「難波橋」



水都大阪への参加の機運が高まった
「水都大阪2009」



水辺カフェ



中之島川(阪神高速下)

天神橋

中之島公園剣先

ぼらその橋

パドルボート(水上さんぽ)



三井不動産
S & E 総合研究所
所長 辻田 昌弘

鉄道や自動車が発明される以前、物流の主役は船舶、すなわち水運であった。現在の東京は江戸時代において既に人口一〇〇万人を擁し、世界有数の巨大都市であったといわれるが、水運はその膨大な人口を支える重要な物流インフラであり、そのため江戸市内には河川や掘割・運河が縦横に張り巡らされていた。そして、それらの水路を行き来する「足」の役割を担ってきたのが「渡し船」であった。

しかし、その渡し船も明治以降は鉄道や自動車の普及と架橋技術の進歩に伴って、河川や水路に架けられた橋梁に取って代わられていく。明治初頭には二〇以上あったといわれる隅田川の渡し船も、昭和四一年に廃止された「汐入の渡し」を最後に姿を消した。

現代の「渡し船」

代わって登場したのがいわゆる「水上バス」である。現在、東京都公園協会と東京都観光汽船の二社が隅田川と東京港内で定期航路を運航しているが、これらは観光バスの周遊コースに定番として組み込まれていることからわかる通り、二〇〇円を払えば自転車やペットも乗せられるところがいい。気軽に生活の「足」代わりに使えるという点で、さしずめ現代版の「渡し船」の観がある。

11

かなり観光向けの色彩が濃く、日常的な交通手段としては必ずしも使い勝手が良いとは言えない。そんな中、昨年四月に新たな水上交通「アーバンランチ」写真Ⅱが就航した。〈アーバンランチ〉は芝浦アイランド・お台場・ららぽーと豊洲の三カ所をそれぞれ二〇分程度で結ぶ。船は揺れの少ないカタマラン(双胴船)で四一人乗りと、既存の水上バス(東京観光汽船の「ヘミコ」で一八〇人乗り)と比べると随分と小振りではあるが、その分クルーザー気分を味わうことができる。

料金は一区間大人五〇〇円。追加料金



いる芝浦くお台場く豊洲の間にしても、レインボーブリッジなどで既に陸路でつ

ながっており、自動車や電車で移動しても所要時間や料金にそれほど違いがあるわけではない。しかし、整備に巨額の投資を必要とする橋や海底トンネルに比べれば、船を走らせるほうがはるかに安くつくことはいうまでもないだろう。

海外に目を転じれば、ニューヨークのスタテンアイランドフェリー、香港のスターフェリー、バンクーバーのシーバスなど、水上交通が通勤通学など市民の日常生活の「足」として基幹的な役割を果たしている例はいくつもある。

その意味で、我が国、特に東京のようにウォーターフロントの開発が急ピッチで進む都市における交通インフラとして、水上交通に対してもう少し積極的な評価がなされてもよいのではないだろうか。

なにより、高層ビルの立ち並ぶ景観を水上から眺めつつ、潮風を頬に受けながら通勤できれば、会社に行くのが多少なりとも楽しくなりそうではないか。

* * *

なお、余談ではあるが、この三月にお台場に新設された「警視庁東京湾岸署」は、その名称が人気ドラマ『踊る大捜査線』の舞台である「湾岸署」と同じことが話題を呼んだが、同署の管轄区域が陸の上だけでなく東京港および周辺の河川や運河などの水面も含んでいることは、意外に知られていない。

三友新聞 平成20年5月29日(木)

バックナンバーはS & E 総合研究所のHPでご覧になれます。
<http://www.mitsuifudosan.co.jp/s-e/>